昭和44年１月９日第三種郵便物認可

隔月（奇数月）１日発行　第５０７号　**岩　手　の　畜　産**　　平成２３年７月１日　(1)

岩手の畜産

題字は達増知事

平成23年７月号

発行所
社団法人　岩手県畜産協会
〒020－0173 滝沢村滝沢字砂込389番7
☎ 019－694－1300(代)
FAX019－694－1305
Internet Address http://iwate.lin.gr.jp
E－Mail Address info@iwate.lin.gr.jp
（定価110円）会員の購読料は会費に含まれる
印刷 小松総合印刷株式会社

岩手農業の輝く明日の創造に向けて

中央農業改良普及センター
所長　茂　木　善　治

畜産春秋

「東北地方太平洋沖地震･津波」により、本県農林水産業は未曾有の被害を被ったところです。

農業施設の破壊や津波による農地へのガレキ漂着・海水の冠水等の被害に加え、畜産では、飼料不足・燃油不足からのブロイラーを中心とする家畜死亡や酪農での生乳廃棄等の被害が発生するなど､いずれの被害も甚大なものとなっています。

一方､牧草から検出された放射性物質により､一部地域で牧草の利用自粛や放牧見合わせが行われる等､畜産に対する経済的影響も大きいものがあります。

こうした中､先月に「岩手県東日本大震災津波復興計画　復興基本計画」が策定されたところであり､農業においては「なりわいの再生」に向け「地域特性を生かした生産性･収益性の高い農業の実現」を目標に掲げ､復興への歩みとして具体的な取組が定められました。

現在、沿岸部の農業改良普及センターでは、地元の農業者や関係機関･団体の方々と連携し､農地や農業用施設の復旧と平行して除塩対策実証圃を設置する等により､営農再開に向けた技術と経営の濃密な支援を実施しております。

農地・農業用施設の整備等に伴い、今後は本格的な農業復興に向けた取組がなされていくものと思いますし、農業改良普及センターにおいても、そうした取組を引き続き精一杯支援して参りたいと思います。

本県は、我が国の「食料供給基地」を標榜し、農業・農村振興と安全・安心な農畜産物生産に努めてきており、そうした取組により県内各地に農産・園芸・畜産で国内屈指の産地が形成されてきております。また､各地に高い技術力と優れた経営感覚を持った担い手や､集落営農組織などが多数育ってきております。

こうした人的･物的財産は、震災･津波被害を乗り越え､本県農業の新たな明日を創造していく原動力となるものと思います。

特にも、酪農･肉用牛や企業的経営体が大半を担う中小家畜は､それぞれ国内トップレベルの生産規模となっており､地域経済への直接・間接の寄与は大きいものがあります。

このため､畜産の生産基盤強化を進めるとともに､生産技術の高度化や低コスト化､及び耕種との連携等による畜産の産地力強化を図り､復興とさらなる発展を期していくことが重要と思います。

農業者と関係機関･団体の方々が足並みを揃え、知恵を出し合いながら、今回の震災･津波被害を乗り越え、着実に前に進んでいくことが必要であり、農業改良普及センターでは、そのために必要な取組と農業者の方々への支援を最大限行っていきたいと思います。

もくじ CONTENTS

畜産春秋…… 1
第77回通常総会…… 2
震災特例融資のご案内…… 3
くずまき高原牧場まつり…… 4
第60回１歳農用馬共進会…… 4
東日本大震災復興支援イベント…… 4
家畜の保健衛生…… 5
各団体総会 盛大に開催される…… 6
平成22年度岩手県獣医畜産業績発表会…… 8
畜産技術情報…… 10
現地情報…… 11
肉用牛肥育経営安定特別対策事業に係る推進会議…… 11
畜産の研究…… 12
子牛市場及び家畜市場成績…… 12

第77回通常総会

本会は６月30日、岩手県産業会館で第77回通常総会を開催しました。

冒頭、長澤会長は「昨年度は口蹄疫、高病原性鶏インフルエンザや自然災害、加えてＴＰＰ問題と、農業経営者はもとより、関係者にとっても気が休まることのない大変な一年であった。特にも、東日本大震災では多くの方々が甚大な被害を被った。本会も現地への影響を最小限に食い止めるよう努めた。今後とも、本県畜産の振興に向け、関係機関・団体挙げて支援対応して参らければならない。」と挨拶。また来賓の山田亙県農林水産部畜産課総括課長は祝辞で「震災被害対策には関係機関・団体と一緒になって対応していく。ハードだけでなくソフト面でも支援していく。」と述べました。

続いて議事に入り、平成22年度一般会計事業報告と収支決算及び特別会計事業報告と収支決算が原案どおり承認されました。

また本年は役員の改選期に当たり理事、監事が新たに選出されました。

平成22年度一般会計事業報告と収支決算

1　事業報告

本県畜産の主産地形成と維持発展の一翼を担っていくため、岩手県が定めるいわて県民計画、酪農及び肉用牛生産近代化計画、家畜及び鶏の改良増殖計画及び農協等生産者団体が進める諸対策について、関係機関・団体と緊密な連携のもとで当協会の総力を結集して畜産経営や飼養管理技術の指導、家畜改良及び自衛防疫等の推進、安全かつ良質な畜産物の生産のための検査・指導を積極果敢に進め、厳しい経営環境下にある本県の畜産振興に寄与した。

特にも、平成22年度は、宮崎県での口蹄疫の発生、夏の猛暑、年末・年始には豪雪、さらに平成23年３月11日には東日本大震災発生等大きな災害に見舞われ、本会の業務においても、第54回岩手県畜産共進会の縮小開催、生乳検査の中断などを余儀なくされたが、その時々で、口蹄疫の侵入・

まん延防止、家畜人工授精用精液等の中断なき供給、生乳検査受入態勢の早期復旧等現地への影響を最小限に食い止めるよう努めた。

【重点的に推進した事項】

(1)　認定農業者等主業型経営体を対象とした経営診断・経営技術指導及び最新技術情報の提供・研修会の開催。
(2)　家畜防疫等家畜衛生対策の推進。
(3)　東北ブロック生乳検査業務の円滑な推進。
(4)　家畜自衛防疫事業、家畜登録（乳用牛･豚）事業、家畜人工授精用精液流通調整事業、生乳検査事業、肉用牛肥育経営安定特別対策事業、肉用牛繁殖雌牛更新促進事業等の実施に伴う各種情報等の効率的活用。
(5)　本県肉用牛の改良増殖及びいわて肉用牛増頭運動等生産振興に寄与。

2　収支決算（正味財産経常費用、単位：千円）

(1)	事業費	独自事業費	3,691
		補助事業費	50,467
		受託事業費	12,037
		負担金事業費	21,745
		計	87,940
(2)	管理費		54,324
		合計	142,264

平成22年度特別会計収支決算（正味財産経常費用、単位：千円）

○	家畜人工授精用精液流通事業	71,305
○	肉用牛肥育経営安定対策事業	501,648
○	肉用牛肥育経営安定特別対策事業	2,281,451
○	優良繁殖雌牛更新事業	34,912
○	家畜登録事業	36,417
○	家畜自衛防疫事業	241,443
○	生乳検査事業	75,241
	合計	3,242,417

ご宿泊 ・ご宴会にご利用下さい。
くずまき交流館プラトー
TEL. 0195-66-0555　FAX. 0195-66-0511
乳製品の自宅宅配承っております。
ミルクハウスくずまき
TEL. 0195-66-0030　FAX. 0195-66-0031
風車が回る高原の焼肉レストラン
レストハウス袖山高原
TEL/FAX. 0195-68-2010
くずまき高原牧場
社団法人 葛巻町畜産開発公社
http://www.kuzumaki.jp
〒028-5402　岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125
TEL. 0195－66－0211　FAX. 0195－66－0755

改選された新役員

総会終了後、平成23年度第２回理事会が開催され、会長理事、副会長理事、常務理事の互選が行われました。

会長理事

田沼　征彦(新)岩手県農業協同組合中央会　会長

副会長理事

三浦　牧夫(新)学識経験者

常務理事

佐藤　　彰(新)学識経験者

理　　事

佐々木正勝(新)岩手県農業会議　会長
杉本　　博(再)全国農業協同組合連合会　岩手県本部長
柳谷　敬志(再)全国共済農業協同組合連合会　岩手県本部長
鈴木　長壽(再)岩手県農業共済組合連合会　会長理事
佐々木雄康(新)㈳岩手県農業公社　常務理事
小林　英男(再)㈱岩手畜産流通センター代表取締役社長
本田　敏秋(再)岩手県市長会
伊達　勝身(再)岩手県町村会
多田　洋悦(新)㈳岩手県獣医師会　会長
藤原　一彦(再)岩手県中央家畜衛生協議会　代表幹事
千田　良和(新)岩手県南家畜衛生推進協議会　代表幹事
村上　　章(再)岩手県北家畜衛生協議会　代表幹事
遠藤　啓介(再)岩手県養豚振興会　会長

監　　事

法領田周一(再)岩手県信用農業協同組合連合会　代表理事理事長
小澤　和弘(再)岩手県農業信用基金協会　専務理事
佐々木　勲(再)学識経験者(岩手中央酪農協同組合　代表理事組合長)

震災特例融資のご案内

日本政策金融公庫盛岡支店農林水産事業

〒020-0021　盛岡市中央通２-２-５　住友生命盛岡ビル６Ｆ　Tel.019-653-9055　Fax.019-654-5263

東日本大震災により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

日本政策金融公庫農林水産事業では、農林漁業者の皆さまの事業の継続や再開のために必要とされる資金について、通常より有利な条件でご利用いただける災害資金を用意しておりますので、お知らせいたします。

直接被災者の方以外に、飼料の仕入れ停止や生乳廃棄などの被害を受けられた方も対象となります。

主な内容は、以下のとおりです。

①農林漁業セーフティネット資金、
　スーパーＬ資金等の**実質無利子化**
②実質無担保無保証
（担保は融資対象物件のみ。保証人は法人の場合の代表者のみ）

主な用途	資金名	据置期間	償還期限	貸付限度　額
運転資金	農林漁業セーフティネット資金	６年	13年	年間経営費
施設の復旧	農林漁業施設資金	６年	18年	１施設当り1,200万円
新たな施設整備	スーパーＬ資金	13年	28年	個人1.5億円 法人　５億円

震災特例融資のお借入に際して

○　**どのような人が融資を受けられますか？**
⇒　今回の地震・津波などによる直接・間接の被害を受けた農業者の方がご利用いただけます。
○　**融資を受ける際に何が必要書類となりますか?**
⇒　決算書類（３カ年分）、被災したことを証明する書類等（市町村で発行される罹災証明書等）が必要になります。
○　**融資が受けられる期限はいつまでですか？**
⇒　平成24年３月末までに、貸付決定された方となります。なお全国で320億円の予算となっておりますので、お早めにご相談ください。
○　**新規に畜舎建設などの設備投資や農地取得を行う場合も震災特例融資の対象になりますか？**
⇒　直接または間接の被災者であれば対象になります。
○　**二重ローン対策として、既往負債の借り換えは可能ですか?**
⇒　直接被災者に限定されますが、可能です。審査によって必要な額に限定されます。

どうぞお気軽にご相談ください！

南山形養豚組合（岩手町）
いわて厳選 やまと豚
岩手畜流会

母豚２，０００頭の一貫経営
・良質豚ぷん堆肥の供給
・徹底した衛生管理と優良系統豚による斉一性の高い高品質豚肉の生産・供給

「南山形養豚組合」
岩手町大字川口36-242-3
TEL. 0195-62-9087　FAX. 0195-62-9373
※精肉のご用命は岩手畜流会（食肉専門店）へ

くずまき高原牧場まつり

北緯40度ミルクとワインとクリーンエネルギーの町葛巻を代表する一大イベント「くずまき高原牧場まつり」が６月11日・12日の２日間、緑豊かな同牧場で開催されました。好天に恵まれた会場では、牛の乳搾り体験に園児や小学生の長い列ができ動物との触れ合いを楽しんでいました。初めて乳搾りを体験した小学生は「牛のおっぱいは柔らかかった」と笑顔で話していました。

また、毎年人気を博している、くずまき高原牛の丸焼きや焼き肉コーナー、高原チーズの石窯ピザなど注目の畜産品を使用した屋台には行列が途切れることがなく続いていました。

今回で15回目となる祭りは、「がんばろう岩手！」を合言葉に大船渡出身の歌手、大沢桃子さ

んや全国アマチュアちんどん競演会で優勝経験のある「チンドン寺町一座」のステージもあり会場を盛り上げていました。

県内外からの家族連れなど、２日間で約３万人の来場者は高原の涼風を胸いっぱいに、美味しい食をお腹一杯に、多彩なイベントで楽しさいっぱいを詰め込んで葛巻高原を満喫していました。

１歳農用馬共進会が開催されました

九戸畜産農協主催の第60回１歳農用馬共進会が平成23年５月14日に開催されました。

今年は１歳馬の雌が９頭、雄が５頭、計14頭の出品があり、岩手県馬事振興会の山下進馬事振興委員が審査に当たりました。審査の結果、軽米町の細谷地安美さんの出品馬「ももこ」（日本輓系種、雌）が発育、体型、肢蹄、歩行、手入れも良いことが評価され１等賞に選ばれました。また、今年は特に肢蹄の良い馬が揃っており、飼育者の管理が良くなっているとの講評もありました。

共進会終了後は市場が開設され、上場された19

頭の１歳馬のうち15頭の購買が成立しました。購買成立馬の平均体重は581kg、平均価格は596,400円でkg当たり1,026円の高値が付いたため出品者も胸をなでおろしていました。

東日本大震災復興支援イベント

大震災から３か月以上が経過し、各地で支援活動が活発に行われています。

温かい豚汁で被災地慰問

日本養豚協会（略称：JPPA　会長：志澤勝）は、東日本大震災で被災し、避難所での生活を強いられている被災者に温かい食べ物で元気づけようと温かい豚汁を振る舞いました。

『豊富な取扱品目で、よりお役に立てる企業を目指しています。』
2010年4月より、『丸善薬品株式会社』から『MPアグロ株式会社』へ社名変更いたしました。
動物用医薬品・畜産用資材・器材・医療機器・医薬品
MPアグロ株式会社
本社：北海道北広島市大曲工業団地6-2-13
盛岡支店：TEL 019(638)3291　一関支店：TEL0191(23)2756

被災地を訪問したのは、同協会の遠藤筆頭副会長（岩手県）が率いる岩手県、福島県、秋田県、群馬県、埼玉県の養豚経営者とJPPA事務局を合わせた関係者総勢20名です。4月25日に山田町の「青少年の家」、26日は大船渡市の「大船渡ふるさとセンター」で計800食分の豚汁を振る舞いました。被災された方々に、地元の豚肉と野菜を使った豚汁をお腹いっぱい食べてもらいたいとの思いから遠藤筆頭副会長が生産する「コマクサ杜仲茶ポーク」80kgを使った豚肉たっぷりの「トン豚汁」で避難所の方々を元気づけました。

終了後、避難されている方々からお礼の言葉と必ず復興すると言う力強い言葉と頂きました。

東日本大震災地域生産食肉ＰＲ活動

岩手県食肉消費対策協議会は、東日本大震災により需要が伸び悩んでいる岩手県産牛肉をＰＲするため、６月12日・13日の２日間、盛岡競馬場で「食べて応援しよう！」イベントを開催しました。

用意されたのは、大槌町産のいわて純情牛肉で、盛岡競馬場来客者に115kgの焼肉の試食と即売を行いました。イベントには「いわて純情むすめ」２人も応援に駆け付け、焼肉試食は大繁盛でした。いわての牛肉は柔らかくて美味しいと好評で、用意された即売用牛肉35kg（70パック）は完売となりました。また、復興支援の冠名付きレースも開催され、副賞も提供されました。

会場では被災地への義援金の募集も行われ、募金108,027円と牛肉即売売上金70,000円と合わせた178,027円が被災地に贈られました。

「食べて応援しよう！」畜産フェアの開催

本会は、東日本大震災の被災県で生産・製造されている畜産物の安全性の普及啓発と消費拡大を推進するため、６月19日に盛岡競馬場で「食べて応援しよう！」畜産フェアを開催しました。

「食べることも被災県の支援につながります」と岩手県、宮城県、福島県、茨城県、それに千葉県の５県から取り寄せたソーセージやヨーグルト、レトルトカレーなど畜産物の詰め合わせセットを競馬場入場者1,000名にプレゼントしました。

岩手県からは岩手畜産流通センターの人気商品「エルンテフェスト」が提供されました。

晴天に恵まれ、競馬を楽しんだ上、美味しいプレゼントに来場者は大満足の様子でした。

人気の畜産品プレゼントに大賑わいでした

家畜の保健衛生　(76)

県内でも確認、牛トロウイルス感染による下痢症

牛トロウイルスという名前をご存知ですか。

“ロタ”でも“ノロ”でもありません。このウイルスは、1979年にアメリカで子牛の下痢の原因として見つけられたものです。それほど新しいウイルスではありませんが、生きた子牛に接種することでしか増やすことができなかったため、長い間あまり知られることがありませんでした。2004年に日本（愛知県）で発生があった際に、初めて培養細胞で増やすことに成功し、これがきっかけで診断ができるようになりました。

本県では昨年度、子牛の下痢の集団発生例から分離され、初めての確認となりました。

牛トロウイルスによる下痢症を防ぐワクチンはまだなく、発生した場合には、補液や二次感染防止など対症療法を的確に行うしかありません。

今後過去の下痢症事例も含めて、県内における浸潤状況を調査し、対策に役立てることとしています。

（岩手県中央家畜保健衛生所）

今までもこれからも。「生命の未来」のために尽くしたい。　＜動物用医薬品・ワクチン・プレミックス・器具機材＞
小田島商事株式会社
本　社　〒025-0311花巻市卸町66番地　TEL 0198-26-4151(代)
花　巻(営)　0198－26－4700 (代)　大船渡(営)　0192－26－4740 (代)
盛　岡(営)　019－638－9551 (代)　八　戸(営)　0178－34－2284 (代)
プレミックス工場 0198-26-4726 (代)　家畜衛生食品検査センター 0198-26-5375 (代)　大館(営),横手(営),青森(営),古川(営),山形(営),酒田(出),福島(営),新潟(駐),旭川(営),札幌(営),帯広(営),釧路(出)

各団体総会 盛大に開催される

岩手県チキン協同組合

岩手県チキン協同組合（理事長：阿部荘介 ㈱阿部繁孝商店取締役会長）は、５月19日（木）、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて「第39回通常総会」を開催しました。

総会には組合員９社の各社長が出席し、提案された平成22年度事業実績と23年度の重点事業、①ブロイラー価格安定対策事業の推進、②高病原性鳥インフルエンザ防疫対策の徹底、③産学官連携により大腸菌症対策を含め農場、食鳥処理の衛生管理対策の強化、④学校給食事業など県産鶏肉普及宣伝の実施などが承認されました。

役員改選により再任された、阿部理事長は「東

日本大震災により、食鳥処理工場や加工工場、農場が被災した。さらに配合飼料や燃料などの供給停止などにより、農場内での圧死や発育停止、ヒナの導入の遅れなど大きな被害を被った。復興のために誠意努力したい」と就任あいさつしました。

また、英強参事の理事就任も決定されました。

岩手県養鶏協会

岩手県養鶏協会（会長：浅沼克男）の第26回定期総会が５月25日、盛岡市の農林会館で開催されました。

総会には県内の採卵、種鶏、孵化経営者や関係団体などが出席、東日本大震災や高病原性鳥インフルエンザ対策等について協議しました。

22年度事業では、①鶏卵に対する正しい知識の基礎理解普及のため、消費者懇談会・料理講習会を開催。②県産鶏卵のＰＲと消費拡大を図るため、「いわて食とみどりのフェスタ」への出展。③鶏卵生産指針の基礎資料となる飼養羽数等の調査を県からの委託で実施。④養鶏経営者の研鑽を図るための研修会の開催などが報告されました。

23年度事業計画では、養鶏業界が一致協力し、養鶏経営の安定向上を図るため、①消費者と鶏卵

生産者との懇談会の開催や鶏卵生産動向の把握等による鶏卵需給安定対策の推進。②高病原性鳥インフルエンザ予防対策や飼料原料供給の多角化への取り組み等による養鶏振興対策の推進。③料理講習会の開催等による鶏卵消費拡大の促進などの事業計画が承認されました。

また、役員改選も行われ、浅沼克男氏が会長に再任されました。

●共進会用馬・乳牛肉牛用頭絡手綱・馬衣・乳牛用新型牛衣・肉牛用牛衣　●牛馬手入用毛ブラシ・根ブラシ・金ぐし
●普通乗鞍・ウエスタン鞍・ポニー用鞍等乗馬具・輓馬具一式・畜犬具
●電気工事用革ケース・カバン・ズック製袋カバン・リュックサックバンド・安全帯
●せんてい鋏ケース他造園工具ケース類　●その他特別御注文のカバン等承って居ります
創業107年品質第一手造りの店
岩手県指定店 塩釜馬具店
盛岡市大沢川原２丁目2の32　ＴＥＬ019-622-5393（労働福祉会館隣）

岩手県馬事振興会

岩手県馬事振興会（会長：千葉伝、事務局本会）の第39回通常総会が５月30日、盛岡市で開催されました。

開会に先立ち千葉会長は「当振興会は優良馬改良や繁殖促進、馬事文化継承イベントに対する助成等様々な役割を担っているのでしっかり取り組んでいきたい。」と挨拶しました。

22年度事業として、①馬産農家確保や後継者、技術指導者の育成を図るため、削蹄実技講習会や飼養管理技術講習会等を開催。②優良馬の改良と繁殖促進のため、優良基礎雌馬の選定保留と主要馬産地に繁殖指導員を配置。③地区共進会の運営支援等による改良増殖計画の推進。④馬事イベントの支援や広報誌「岩手の馬コ」の発行による馬事振興事業の実施。などの活動実績が報告されました。

23年度は、①本県の広大な草資源を活用した農

用馬・乗用馬の生産振興により馬産農家の確保育成、馬産技術者の養成。②優良基礎雌馬の保留や共進会の開催支援により改良登録の推進。③飼養管理技術向上講習会や繁殖技術指導者の委嘱配置等により繁殖成績の向上。④チャグチャグ馬コ、流鏑馬など地域活性化イベントの支援による馬産岩手の伝統を堅持。などの事業計画が提案され承認されました。

馬事振興会活動により、馬産地岩手の伝統が堅持され、馬を活用した地域活性化の推進が期待されています。

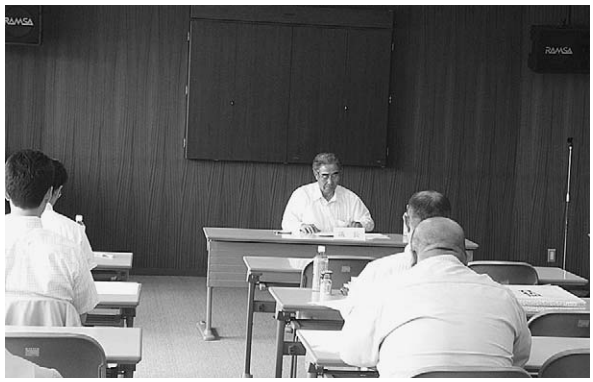
岩手県乳用牛群検定推進協議会

平成23年度岩手県乳用牛群検定推進協議会（会長：福田稔JA新いわて専務理事）通常総会が６月10日、滝沢村の畜産研究所で開催されました。

開会の挨拶で福田会長は、県内の牛群検定農家数、頭数とも減少傾向にあるが、経営の成長のためには乳用牛群検定事業の推進が必要であると同協議会活動の重要性を強調しました。

22年度は乳用牛群後代検定事業や乳用牛改良国際化対応総合推進対策事業の実施や検定成績の精度を高めるため乳量計の検査などの事業実施が報告されました。

23年度は地域と一体になった仲間づくりを進め、加入農家を増やしながら乳用牛群後代検定事業、乳用牛改良体制強化事業等を関係機関・団体等と協同して推進する事業計画が原案通り承認さ



れました。

さらに、今年は役員改選も行われ、会長に福田稔氏が再任されました。

また、総会に先立ち検定員の実務経験が５年以上であり、検定農家の信望が厚い検定員３名に対し優良検定員の表彰式が行われました。表彰された検定員は次の方々です。

西舘裕也氏（いわて奥中山牛群検定組合）、佐古賢太郎氏（いわて奥中山牛群検定組合）、古里渉氏（花平牛群検定組合）

小ロットのオンデマンド印刷から
大量商業印刷まで
各種印刷・ドキュメント処理・アンケート調査支援
CTPシステム
小松総合印刷株式会社
岩手県盛岡市鉈屋町15-4　TEL(019)624-1374　FAX(019)623-6719
E-mail:mail@komatsu-gp.com　URL:http://www.komatsu-gp.com

平成22年度岩手県獣医畜産業績発表会

岩手県畜産協会長賞（畜産部門）

室根高原牧野（一関市）における集約放牧を中心とした牧場機能向上について

一関農業改良普及センター　佐々木　正　俊

１．室根高原牧野の概要

公共牧場は地域の畜産農家にとって重要な生産基盤であり、特に一関管内は飼料基盤の少ない中山間地であるため、公共牧場に対して大きな期待が寄せられている。一関市東部にある室根高原牧野（以下室高）は当管内の公共牧場の１つで、平成21年度より管理者が市から農協へと移行し、新たに運営をスタートさせた。室高は、総面積300haで、採草地、放牧地、兼用地として利用され、事業内容として、夏期放牧、冬期預託、採草を行う牧場である。夏期放牧時は、乳用育成牛・黒毛繁殖牛とも約150頭を受け入れている。

２．背景

室高ではこれまで、放牧地１牧区当たりの面積が10ha前後と広いことから、粗放的な管理が目立ち、そのため、牧野の収容能力が低く、牛の増体の確保、預託頭数の増加は実現できていなかった。平成20年には、収容能力不足による受け入れ頭数制限や利用頭数の減少、経営収支の赤字などの課題が表面化していた。一方で、公共牧場へのニーズは年々高まってきており、これらの課題を早急に解決する必要があったが、牧場管理図面が開発当初のものしかなく、面積や牧区構成が不明確など、牧場の真の実態が整理されていない状況だった。そこで、平成20年度より始まった公共牧場リフレッシュ事業の対象牧場に指定し、ゼロからの現状把握、課題の具体化、そして課題解決へ向けて関係者が一体となり取り組みを始めた。

３．取り組み内容

現状把握から、育成技術の改善が課題の１つとして具体化され、その改善方法として集約放牧を行うこととした。集約放牧とは、牧区の小牧区化と頻繁な転牧により、栄養価が高い短草を放牧牛に食べさせて生産性を向上させようとする技術であり、本取り組みでは、増体量の必要な乳用育成牛を対象畜種とした。具体的な集約放牧の条件は表１に示した。

表１　集約放牧の概要

対象畜種	乳用育成牛（種付け前）
群の規模	20～50頭
牧区面積	0.5～３ha
転牧間隔	１～４日
牧柵線の種類	外柵：有刺鉄線　　仕切柵：電牧（ポリワイヤー）
放牧期間	５／13～11／24（H21） ５／21～11／20（H22）
増体量の目標	日増体量（ＤＧ）700ｇ以上

(1)　平成21年度の取り組み（集約放牧１年目）

集約放牧初年度のため、実施前の準備として、牧区の選定から行った。選定の際には、前年度に小型ＧＰＳを利用して作成した図面を利用し、群の頭数、１牧区当たりの面積、滞牧日数を考慮して選定した。集約放牧に必要な小牧区化を実現するためにポリワイヤーを使った電気牧柵を利用し、１牧区当たりに必要な面積へと区切った。牛も人も電牧は初めてだったので、牛の馴致施設を設置し、牧場スタッフへは電牧資材の取り扱い方を覚えてもらうための講習会を開いた。また、牧区を仕切って牧区数を増やした結果、どうしても既存の給水施設にアクセスできない牧区ができたことから、それらの牧区には移動が可能で設置も簡単な簡易水槽（トロフ）を増設した。（写真）

増設したトロフ

集約放牧が開始されてからは、採食量の過

お届けします！　一歩すすんだ安全・安心
北日本くみあい飼料（株）北東北支店
〒025-0312
岩手県花巻市二枚橋５地割165番地
TEL　0198-26-1215　FAX0198-26-1211
《牛の飼料は、すべて専用工場・専用工程で製造し、専用車で生産者の皆様にお届けいたします。》

不足をみるために転牧前、転牧後の草高の測定を行い、転牧のタイミングの良し悪しを判断し、同時に草地の収量調査、牧草の成分分析を行った。更に効果測定のために衛生検査時に体測を実施し増体の具合を把握した。

⑵　平成22年度の取り組み（集約放牧２年目）

集約放牧を継続するにあたり、前年度の結果から、以下の事項を課題として設定した。

①受胎月齢が遅い

小牧区に区切ったため、パドックや集畜施設のない牧区に放牧牛がいることがあり、発情の牛を見つけたとしても、捕獲して繋留しておくことが困難で、種付けまでこぎつけられないことがあった。集畜施設が無い牧区では、発情牛の繋留が困難なことが原因として考えられ、対策は、発情発見と授精の効率化に設定した。

②転牧作業の負担が大きい

転牧の度、電牧の張り替え作業が必要だったことが原因として考えられた。そのため、電牧張り替え作業の労力軽減、省力化に取り組むこととした。

③若齢牛の増体量が低迷

生草だけの採食では、乾物摂取量が最大だったとしても、養分要求量を満たせていなかったことが原因として考えられた。生草だけの採食で養分要求量を満たせる放牧月齢基準が必要となった。

これらそれぞれの課題を解決するために、以下の取り組みを行った。

①発情発見と授精の効率化

種付け群をあらたに設け、種付け群は必ず集畜施設にアクセスできる牧区に転牧させた。また、発情観察の方法も放牧されている牛をなんとなく見るのではなく、毎朝全頭をパドックに集畜させ、狭い場所に牛を集めることで、乗臥など、発情兆候を発見しやすくした。

②電牧張り替え作業の省力化

仕切り柵の一部を恒久柵にした。これにより電牧の張り替え作業は初年度の半分程度に軽減された。

③完全放牧に切り替える月齢基準の設定

初年度の体測データを分析し、良好な発育を見せている９ヶ月齢､体重250ｋｇ以上から放牧に出すことにした。併せて栄養状態を把握するために、血液検査を季節ごとに実施した。

４．結果

目標として日増体量（ＤＧ）700gとしていたが、平成21年度817g、平成22年度836gの増体量を確保することができた。ＤＧと併せて、受胎月齢を早めることも牧場機能の中で重要であり、平成21年度から22年度にかけて1.4ヶ月の短縮を実現することができ､それにより初産予定月齢も早めることができた。（表２）

また、これらの取り組みの成果から、預託頭数も年々増加しており、牧場収支の改善にも効果があった。（図１）

表２　集約放牧のDG､初回授精月齢､受胎月齢､初産予定月齢

	H21	H22	目標
ＤＧ（ｇ）	817	836	700
初回授精月齢（ヶ月）	15.8	16.2	
受胎月齢（ヶ月）	18.2	16.8	
初産予定月齢（ヶ月）	27.3	25.9	

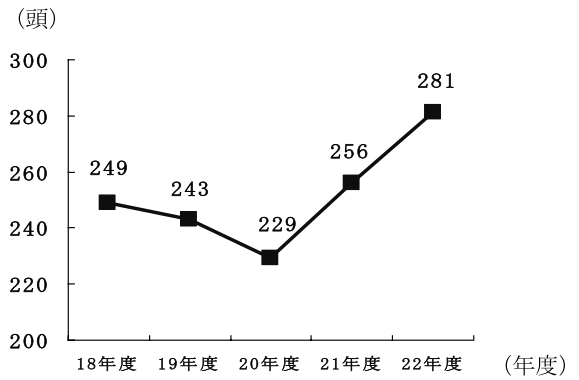


図１　夏期預託頭数の推移

５．今後の課題

集約放牧の導入により一定の成果を得ることができたため、継続していく体制を確立していくことが必要である。今回の取り組みで構築された関係機関が一体となった支援体制を継続していき、更なる牧場運営能力の向上につながることを期待する。

液体窒素、凍結精液保管容器を通じて
畜産界にお手伝いをしています。
東邦岩手 株式会社
本　　社　紫波郡矢巾町大字藤沢第10地割136番地　TEL (019) 697−4151(代)
盛岡営業所　盛岡市みたけ二丁目１番４５号　TEL (019) 641−1195(代)
ホームガスセンター　盛岡市みたけ二丁目１番４５号　TEL (019) 641−3143(代)
宮古営業所　宮古市大字赤前第４地割108番地３　TEL (0193) 67−2445(代)
釜石営業所　釜石市新浜町一丁目２番１１号　TEL (0193) 22−0540
水沢営業所　水沢市字八反町８２番１号　TEL (0197) 25−8033(代)

畜産技術情報 ⑵⑼

牧　草･トウモロコシ

○２番草は刈り取り高さに気をつけて、適切な時期に収穫しましょう。
○エゾノギシギシの防除は、ギシギシの結実前に行いましょう。
○飼料用トウモロコシの獣害（クマ）対策の準備をしましょう。

1. 草地管理

⑴　刈り取り時期

２番草の刈り取りは、１番草収穫後から40～55日が目安です。土壌及び牧草の水分が高く、気温の高いこの時期は、牧草が蒸れ上がり易いので、早めの刈り取りに努めます。

⑵　刈り取りの高さ

梅雨明け後は、日射量が急に多くなります。刈り取りの高さが極端に低い場合、地面の温度が上がり過ぎ、根が高温障害を受けやすくなります。刈り取りの高さは､10～15cmとしましょう。

⑶　追肥

施肥量は10ａあたり窒素成分で５kgを目安とし、刈り取り後できるだけ早く行います。この時期の尿散布は、肥料焼けを防ぐため、曇天や降雨前後に散布しましょう。

⑷　強害雑草対策（エゾノギシギシ）

エゾノギシギシは、種子と根茎により繁殖し、１株あたりの種子数が多く（３～４万粒)、土中の種子も長期間発芽能力を有します。このため、「結実させない」、「根茎を切断しない」ことが重要になります。

薬剤による除草は、チフェンスルフロンメチル剤の茎葉散布が有効です。ギシギシの葉が展葉してから散布します。散布後21日間は採草及び放牧ができないこと、クローバーに薬害が出やすいので、クローバーの占有率が高い圃場での使用を控えることに留意下さい。

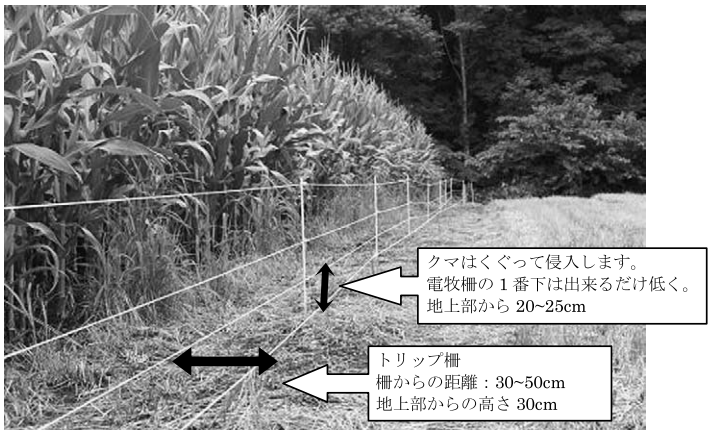
2. 飼料用トウモロコシの獣害(クマ)対策

近年、県内においてクマによる飼料用トウモロコシの食害が多数発生しており、クマの圃場への侵入対策として電気柵の設置が効果をあげています。

電気柵は電気ショックを経験させて、動物の心理的バリヤーを構築することにより圃場への侵入を防ぎます。物理的な柵ではないので、以下の基本技術の徹底が大切です。

⑴　トウモロコシの出穂前（７月下旬～８月上旬）には設置を完了
⑵　アースを確実に設置
⑶　漏電防止の徹底
　ア．電気柵に草などが触れないようにこまめに草刈、除草剤散布を行う
　イ．設置後も定期的な電圧チェックを行う

電気柵設置に係る詳細と相談は最寄りの農業改良普及センターまでお問い合わせください。



電気牧柵（トリップ柵付き）の設置例（県内事例）

(中央農業改良普及センター滝沢駐在　019−688−5525)

白金豚
農場直営店
源喜屋
源喜屋 盛岡店
盛岡市大通3丁目4-1　クロステラス盛岡2階
電話:019-681-2711
※源喜屋花巻本店･レストランポパイもよろしくお願いします。

地域の話題をお届けします

現　地　情　報

岩　泉

「料理コンテストいわいずみ短角牛+1」を開催しました

ヘルシーで安全・安心な岩泉町特産の短角牛肉の消費拡大･定着を図るために、「料理コンテストいわいずみ短角牛＋１」が開催されました。

「簡単でリーズナブル」、そして「いわいずみらしい」メニューを開発することを狙いとして行われたコンテストには、町内外の66人から86作品の応募があり、第１次審査を通過した５名が３月６日、岩泉町民会館にて、料理のアイデアと腕前を競い合いました。審査委員長にＩＢＣアナウンサーの大塚富夫氏を招き、専門審査員３名、来賓･特別審査員６名と公募で選ばれた一般審査員50名とともに試食審査が行われました。審査の結果、岩泉町の邊見むつ子さんの「牛方（うしかた）どん」が最優秀賞に輝きました。

審査を行った一般審査員からは、「おいしい」、「家でも作ってみたい」などの声が聞かれました。

なお、入賞作品は、今後店頭でのメニュー化も検討されており、ヘルシーで安全・安心な短角牛肉が、今回の料理コンテストの成果を活用することによって、短角牛肉の消費が拡大されていくことを願っています。

最優秀賞の牛方どん

（宮古農業改良普及センター 岩泉普及サブセンター 中森　忠義）

肉用牛肥育経営安定特別対策事業に係る推進会議

５月27日、平成23年度肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン）の円滑な事業推進のため、事務委託先等が参集し推進会議が開催されました。

会議は本会が主催し、県畜産課、地方振興局、市町村、JA等事務委託先の担当者等43名が出席し、事業実施要綱の改正や事務処理のポイント、東日本大震災への対応等について事業推進の確認を行いました。

会議に先立って本会の三浦常務は、マルキン事業は肥育牛経営の重要なセーフティネット、農家への補てん金が適正に支払われるように､入口(登録）から出口（販売）まで間違えないよう実施する必要がある。今回の会議を受け各地で円滑な実施をお願いする。と挨拶しました。

会議で話し合われた主な内容は次の通り。

○新マルキン事業の仕組み

肥育牛１頭当たり平均粗収益が平均生産費を下回った場合に、積立金（生産者１：国３）からその差額の８割を補てんする事業（H22年４月から実施）

○H22度実績

・全品種の年間個体登録頭数（H22年４月～H23年３月）は前年比16％増の28,191頭であった。
・肥育牛補塡金の交付総額(H22年４月～12月)は670,612,700円であった。

○新マルキン事業のH23度生産者積立金

・肉専用種　13,000円／頭(H22年度20,000円)
・交 雑 種　25,000円／頭(H22年度27,800円)
・乳 用 種　18,000円／頭(H22年度15,000円)

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい！」という方は、地方競馬全国協会までご連絡ください。
地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。
なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイトhttp://www.keiba.go.jp/でもご覧いただけます。
担当：地方競馬全国協会　審査部 登録課　電話 03-3583-2142

昭和44年１月９日第三種郵便物認可

畜 産 の 研 究 (76)

交配計画作成プログラム「豚交配管理支援システム」

県内には、バークシャー種生産農家や、三元交雑用の母豚として純粋種を維持、改良している施設があります。これらの生産者は純粋種を維持しながら、良い形質を残していくように交配していますが、限られた頭数では近交係数の上昇による生産性の悪化を招くこと（近交退化）が危惧されます。そこで、近交係数の急激な上昇を抑制するための交配計画を作成するシステムを岩手県立大学ソフトウェア情報学部と共同で開発しましたので紹介します。

このシステムは Microsoft Excel2003 以降のバージョンが入っているパソコンで利用でき、交配させる雄・雌個体の血縁と近交係数を入力することで、純粋種豚群における次世代の平均近交係数を最小にする交配計画を計算、提示するものです（図１）。この効果を検証するために雄10頭、雌20頭の種豚群で交配シミュレーションを行い４年後の種豚群の平均近交係数をランダムに交配した場合と比較した結果、豚交配管理支援システムを用いた計画交配の方が近交係数の上昇を抑制できることが確認されました（図２）。現在、このシステムは種豚の近交係数をあらかじめ算出して入力する必要がありますが、今後は個体の血縁情報を入力するだけで交配計画が示されるようにするなど、さらに使いやすくなるようにバージョンアップしていく予定です。

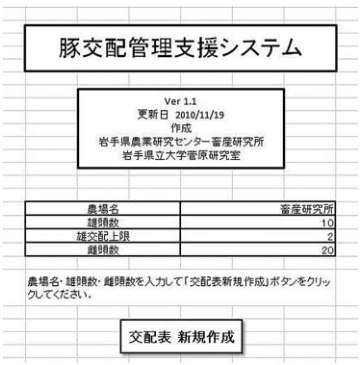


図１　豚交配管理支援システム交配表作成画面

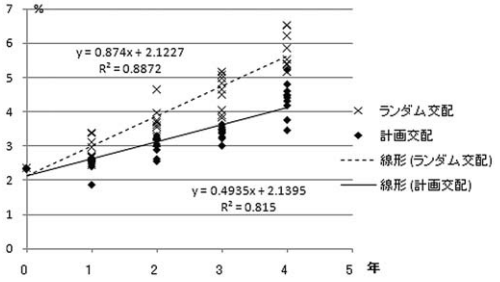


図２　交配シミュレーション近交係数の推移

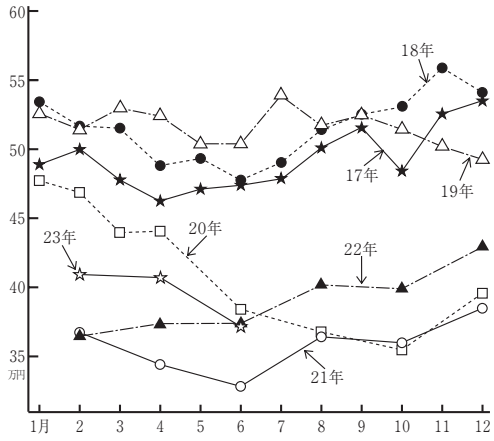
（岩手県農業研究センター　畜産研究所）

平成23年６月和牛子牛市場成績〈税込〉

（全農岩手県本部）

市場（月日）	上場地域	性別	頭数	最高（円）	最低（円）	平均（円）	平均体重	kg当単価
県南 6／8 ㈬	胆江気仙	♀	180	668,850	162,750	342,084	274	1,247
		♂	244	602,700	261,450	395,656	304	1,300
		計	424	668,850	162,750	372,913	292	1,278
県南 6／9 ㈭	磐井	♀	185	633,150	115,500	327,373	270	1,213
		♂	218	582,750	264,600	381,511	307	1,243
		計	403	633,150	115,500	356,659	290	1,230
中央 6／15 ㈬	宮古二戸久慈	♀	168	789,600	168,000	337,944	275	1,228
		♂	198	591,150	283,500	402,479	311	291
		計	366	789,600	168,000	372,856	295	1,266
中央 6／16 ㈭	岩手郡八幡平玉山	♀	198	655,200	214,200	351,108	275	1,275
		♂	291	568,050	109,200	411,726	303	1,357
		計	489	655,200	109,200	387,182	292	1,326
中央 6／17 ㈮	盛岡紫波花巻北上遠野	♀	225	640,500	201,600	337,741	281	1,203
		♂	259	583,800	148,050	393,061	311	1,265
		計	484	640,500	148,050	367,344	297	1,238
合計		♀	956	789,600	115,500	339,356	275	1,233
		♂						
		♂	1,210	602,700	109,200	397,533	307	1,295
		計	2,166	789,600	109,200	371,856	293	1,269

子牛価格の推移



平成23年５月岩手県内指定家畜市場取引成績

㈳岩手県農畜産物価格安定基金協会

区分	指定肉用子牛		
	頭数	金額	平均価格
黒毛和種	頭 1,395	円 526,467,900	円 377,396
ホルスタイン種（雌を除く）	1	92,400	92,400
交雑種・乳	6	1,267,350	211,225

（注）：金額、価格は消費税込み